

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E111B012		保育内容総論 (Introduction of Contents in Early Childhood Care and Education)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
必修	2	2	教育学部 令和2年度以降入学生用	後期	月1	日本語				単独					
担当教員	氏名 永田 誠 E-mail m-nagata@oita-u.ac.jp 内線 7559														
授業の概要	現代において、幼児教育・保育は質の向上と幼児教育・保育者の専門性の確立・深化に大きな期待が寄せられている。そのため、幼児教育・保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら、環境を構成し、実践するための必要な知識・技能を身に付けることが求められる。本講義では、幼児教育・保育の全体構造の中で保育内容をとらえ、具体的な保育内容の構成や、保育の展開、評価について学習する。また、多様な保育ニーズへの対応や幼稚園・保育所・地域・小学校との連携、保育者の資質向上等、保育全体にわたる現代的課題についても学習を進めるとともに、遊びや生活を通した総合的な指導法を学ぶことを目的とする。														
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	幼児教育・保育における保育内容全体の構造と指導法について理解する。								○						
目標2	幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成の必要性和方法を理解する。									○					
目標3	幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。											○			
目標4	幼児教育者としての自己の実践に対する省察と改善に意欲的に取り組むことができる。												○		
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									2		3		3	2	
授業の内容															
1	幼児教育・保育の基本的理解														
2	保育内容の構成(1)保育のねらいと内容														
3	保育の実践を通した子ども理解と教師の援助(1)保育事例から見る子どもの学びと教師の関わり														
4	保育の実践を通した子ども理解と教師の援助(2)子どもの学びと教師の関わりを捉える視点と方法														
5	保育の実践を通した子ども理解と教師の援助(3)保育観察を通した子どもの学びと教師の援助 自由遊び														
6	保育の実践を通した子ども理解と教師の援助(3)保育観察を通した子どもの学びと教師の援助 環境と関わる遊び														
7	保育の実践を通した子ども理解と教師の援助(3)保育観察を通した子どもの学びと教師の援助 協同的な遊び														
8	保育の実践を通した子ども理解と教師の援助(4)保育観察の振り返り(情報機器及び教材の活用を含む。)														
9	幼児の発達を踏まえた教育課程・保育内容の理解(1)幼稚園における保育観察記録の作成 子どもの学びの姿(情報機器及び教材の活用を含む。)														
10	幼児の発達を踏まえた教育課程・保育内容の理解(1)幼稚園における保育観察記録の作成 環境構成と教師の援助(情報機器及び教材の活用を含む。)														
11	幼児の発達を踏まえた教育課程・保育内容の理解(2)保育記録の事例と考察 3歳児の保育を事例に【グループ発表】														
12	幼児の発達を踏まえた教育課程・保育内容の理解(2)保育観察の事例と考察 4歳児の保育を事例に【グループ発表】														
13	幼児の発達を踏まえた教育課程・保育内容の理解(2)保育観察の事例と考察 5歳児の保育を事例に【グループ発表】														
14	幼児の発達を踏まえた教育課程・保育内容の理解(3)保育事例から見る子どもの学びと教師の関わり【総括討議】														
15	多様化する保育ニーズと保育者の専門性の向上:専門的力量としての「幼児理解」と「対話」														
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	・本講義では附属幼稚園での保育参加観察を実施する。 ・保育の実践事例をもとに、保育記録を作成し、幼児の遊びをもとにした「学び」の姿について発表・相互討議する。					工夫の他の							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	対応する箇所の教科書の内容の精読(5h) 保育観察記録の作成ならびに考察(10h)													
	事後学修	講義内容の振り返りによる知識の定着と課題レポートの作成(30h)													
	想定時間合計														
教科書	小笠原圭・植田明編著『保育の計画と方法』(保育・教育ネオシリーズ3)同文書院,2018年(ISBN:978-4810314687)														
参考書	・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年(ISBN:978-4805402580) ・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館、2018年(ISBN:978-4577814475)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業課題レポート	50%	○	○	○	○						
	学期末レポート	20%	○	○	○	○						
	保育記録の作成と考察	20%	○	○	○	○						
	授業内での活動，課題・討議に関する取り組み状況等	10%	○	○	○	○						
注意事項	本講義は，保育参加観察やグループ発表といった演習形式にて進めるため，受講生の積極的な授業参画を望む。 授業・課題への取り組み状況などは，成績評価に厳密に反映する。											
備考	履修者の関心ならびに授業の進捗状況によって，講義内容・計画を変更することがある。 この科目は『地域創生教育科目』です。											
リンク												
	URL											